研究公開文書

2023年　7月　31日

研　究　名	大腿骨近位部骨折患者における大腿前面筋の筋厚のADLへの影響
研究の概要	大腿骨近位部骨折は1990年と比較して2050年では年間発生数が約4倍になると報告されており、高齢化が進む日本においては全体の発症率は高くなると予想される。大腿骨近位部骨折の1年後死亡率は約20-30%であり、発症後の障害により生活の質(Quality of life:QOL)は低下すると考えられる。 大腿骨近位部骨折後のActivities of Daily Living (ADL) の低下はその障害の1つであり、下肢機能障害の要因となる。ADLの低下の原因となる因子が明確になることは、有効な治療法を選択する上で重要となる。 超音波画像診断装置は筋肉を非侵襲的にモニタリングできる機器である。超音波画像診断装置を用いた大腿前面の筋厚の評価はADLの低下の原因を判断できる指標になると考えている。そこで本研究の目的は、ADLの低下の原因となる可能性がある大腿前面の筋厚を超音波画像診断装置を用いて調査することとした。
研究対象	包含基準：大腿骨頚部骨折、大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折、大腿骨基頚部骨折のいずれかの診断で整形外科に入院した患者、年齢65歳以上の患者、治療に手術が必要である患者 除外基準：研究に対する同意が得られない患者、末期の悪性疾患をもつ患者、コントロールされていない慢性肝疾患をもつ患者、骨折前に歩行困難である患者、術後リハ中に体重負荷の適応が一部または不可の患者、予期せぬ事故により術後リハビリを中断した患者、嚥下障害により経管栄養を必要とする患者
研究責任者	小田原市立病院　リハビリテーション室　増田隆之介
研究実施期間	研究許可日～令和9年3月31日

連　絡　先	小田原市久野４６番地　小田原市立病院　0465-34-3175